始業式あいさつ　　H29.1.10

おはようございます。いよいよ 2017 年が始まりました。
２学期の終業式で、「お正月は、これからの目標を見直す良い機会」だと言いましたが、皆さんは、将来の自分について考えてくれたでしょうか。
３年生は、進路希望の実現に向け、前進あるのみ。センター試験がすぐそこに迫っています。一般入試も１月末から始まります。平常心を保って、最後までやりきってください。進路が決定した人は、卒業後のことを考えたでしょうか。これからの学校生活、まだ進路が決まっていない人のことを考えて生活してください。
２年生は、修学旅行がすぐそこに迫っています。高校生活で最も思い出深いものとなるように楽しみましょう。その後は、切り替えて、目標の実現のための努力をしてください。
１年生は、入学以降の反省をしっかりと行えたでしょうか。一番目標が定まっていない時期かもしれません。目標が定まった時、何をやるべきかが見え、実行できるようになると思います。一日でも早く、実行できるようにしてください。

さて、皆さんは、どんな人生を送りたいのでしょうか。それは、親が決めるものではありません。友だちと決めるものでもありません。先生方のアドバイスをそのまま実行するものでもありません。皆さん自身が決めることなのです。
正月前に「ビリギャル」という映画を見ました。見た人もいると思います。一昨年、話題になった映画ですが、初めて見ました。クラスでビリだった女子生徒が勉強を頑張って、私学の最高峰のひとつである慶応大学に合格した物語ですが、いろいろなことを考えさせられました。家族、仲間や先生の大切さです。もちろん助けてくれる人たちがいたから、奇跡のような話になったのかもしれませんが、自分自身が決めたことをあきらめ、負けていたら、あのような奇跡は起こらなかったと思います。
実際の主人公が言っていた言葉で、印象に残ったものを紹介します。「ひたすらどんどんやって、そうしたらどんどん出来て、小さな”できる”がやる気につながって、どんどんどんどんやる気が増して、今思うと割と楽しんでやったんじゃないかと思います。」、「人生には色んな困難が必ずある。それを何とかするには逃げずに立ち向かうしかないんですよね。」、「死ぬ気で頑張るって、意外といいもんでした。」そして、主人公は「この奇跡は、あなたにも起こる。」と言っています。
また、主人公を励まし続けた塾の先生はこう言っています。「自分や、あなたが大切にする周囲の人を、どれだけ信じられるか？そしてそのためにどれだけ努力できるか？」で、受験も人生もうまくいくかどうかが変わります。
勉強で、クラスの「上位の子」を見て、「あの子は才能がある」「もともと頭がよい」と言って、漫画を読む、テレビを見る、長時間スマホで友達と連絡し合っている。でも、「頭の良い」と言われる人は、しっかり勉強している人なのです。主人公は、「もともと頭が良かった」「すごい進学校だった」などと世間で言われているようですが、高校２年生の夏休みには、小学４年生程度の学力しかありませんでした。それでも頭が良かったと僕は思います。「あなただってそう！」なのです。あなただってもともと頭は良いし、才

能があるのです。しかし、「やっていないだけ」なのです。あるいは、やり方を間違っているだけなのです。
　だから、ぜひ自分自身に問いかけてください。「自分はどうなりたいのか？」と。そして、「どうせ自分なんか」と思ったり、あるいは周囲の人の言う「お前には無理だ」とか「おまえはダメだ」なんて言葉に負けず、「今に見ていろ！」と努力をしてみてください。今すぐスマホを見るのをやめて勉強してみてください。結果が出ます。
　２人の言葉にどのような感想をもちましたか。

　年末年始の挨拶で、荒了寛さんという住職の言葉を教えてくださった先生がありました。今日話したことが、詰まっているような言葉なので紹介します。
　「たのしい人はなんでもたのしむ。苦しむ人はなんでも苦しむ。」
　同じことをしても、楽しむ人と苦しむ人がいます。ビリギャルの主人公のように難しいことに挑戦して、楽しみに変える人がいます。一方では、今が楽な方に流れてしまい、後悔したり最後に苦しむ人生を送る人もいます。
　もう一度言います。「たのしい人はなんでもたのしむ。苦しむ人はなんでも苦しむ。」皆さんはどちらの人生を選びますか。

　いつも言ってることですが、皆さんには、どんなことでも良いので、精一杯取り組んでほしいと思っています。今日は勉強のことが中心になりましたが、部活動でも、行事でも、ボランティアでも、何でも良いので夢中になって欲しいのです。高校生活はあっという間に過ぎ去っていきます。スマホとにらめっこして、大切な時間を浪費するのではなく、貴重な時間を、有効に使ってください。
　今年１年が、今日話した意味で「楽しい」１年になることを期待して、始業式のあいつとします。